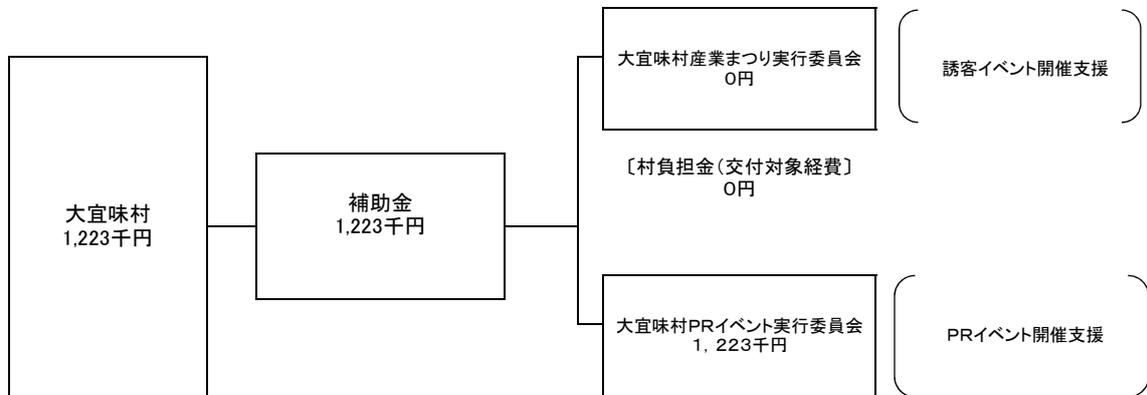


市町村名	大宜味村						
令和3年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-①	大宜味村観光情報発信整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(9)-イ	
担当部署名	産業振興課・企画観光課	事業実施(予定)年度	平成24年度～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	県産品の販路拡大と地域ブランドの形成 Ⅲ-1-(1)		
事業内容	観光資源(文化財、自然資源、特産品、体験事業)など情報をより効果的に広く発信するため、大宜味村産業まつり及びPRイベントを開催し交流人口の増加を促進する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		9,550	12,550	14,550	5,000	9,550
			9,550	12,550	10,050	390	4,500
			0	0	▲ 4,500	▲ 4,610	▲ 5,050
			9,550	12,550	10,050	390	4,500
	B. 執行済額 うち交付金充当額		8,525	9,138	6,103	390	1,223
			6,820	7,310	4,882	312	978
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		89.3%	72.8%	60.7%	100.0%	27.2%
	予算の状況の説明	・産業まつりについては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。 ・PRイベントについては、新型コロナウイルス感染拡大により当初予定していたイベント等の中止により計画をしていたイベントへの参加が出来なかったため予算の調整を行った					
活動目標(指標)及び達成状況	R3活動目標(指標)		達成状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	産業まつり誘客イベント開催支援	目標	(開催)	(開催支援)	(開催支援)	(開催支援)	
		実績	実施	実施	順延	順延	
	PRイベント開催支援	目標	(開催支援)	(開催支援)	(開催支援)	(開催支援)	
実績		実施	実施	実施	実施		
達成状況説明	・産業まつり:コロナの影響により中止となり未実施。 ・大宜味村の特産物商品である、シークワサー酢(SKSS)・シークワサーあめ・シークワサーまんじゅうなどの販売を行った。 ※コロナの影響により試食、試飲は出来ず、そのまま販売を行なった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R3成果目標(指標)		基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(年度)
	大宜味村産業まつり来場者数	目標	()	(5,500人)	(5,500人)	(5,500人)	()
		実績		5,558人	未実施	未実施	
	PRイベント来場者数	目標	()	(15,000人)	(10,000人)	(11,000人)	()
		実績		21,400人	1,301人	14,700人	
進捗状況説明	・産業まつり:コロナの影響により中止となり未実施。 ・令和3年度は、県内2カ所、県外3カ所でPRイベントを行った。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(産業まつり) 今年度においても、コロナの影響もあり産業まつりの開催自体が出来なかった。	(産業まつり) ①広報活動の周知の更なる強化を行い、大宜味村らしいイベントを定着させ、村外来場者の固定化を促すことが必要である。 ②現在、旧大宜味小学校グラウンドを会場に行っているが、駐車場に限りがあり、臨時駐車場等を新たに設ける必要がある。別の案としては、別会場でのまつり開催も検討する。
	(PRイベント) 今年度においても、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、多くのイベント等が中止になった。	(PRイベント) ①より多くの方々へ大宜味村のPRをするために、開催場所について検討する。 ②来場者に対し、より効果的PR方法の検証及び取組体制を見直して継続してPRイベントを実施する。
今後の取り組み方針		
<p>(産業まつり)</p> <p>①周知期間を長くするためプログラムを早めに決定し、チラシ作成の発注を早い段階で行う。 ②産業祭りのべつ会場として「やんばるの森ビジターセンター(道の駅おおぎみ)」での開催を検討し調整する。</p> <p>(PRイベント)</p> <p>①令和4年度はイベント交流人口15,000人以上を目標に、より多くの方々に大宜味村をPRするため、大都市をはじめ新規開催地での実施を検討する。 ②大宜味村の魅力PRのための強化をするため観光ガイドマップ等の活用に取り組む。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

	総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
			交付金充当額	市町村負担金	
産業まつり	0	0	0	0	0
PRイベント	1,223	1,223	978	245	0
合計	1,223	1,223	978	245	0



資金の流 れ・費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		大宜味村					
令和3年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-②		環境保全・美化推進事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-1-(1)-(ア)	
	担当部署名	建設環境課		事業実施 (予定)年度		平成28～令和3年度	沖縄振興基本方針 該当箇所
事業内容		野良犬、野良猫、ハブ対策として環境保全の作業員による保護・捕獲器の設置、回収を行い地域住民や観光客の安全確保を図る。 また、猫の適正飼育の周知や、猫の譲渡強化等を図る。					Ⅲ-1-(1)
	効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)					
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)	予算の状況	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
		(a)当初予算額	5,594	5,549	5,724	7,741	10,049
	(b)予算現額	5,594	5,549	5,724	10,504	9,082	
	(c)増減額(b-a)	0	0	0	2,763	▲967	
	(d)繰越額	-	-	-	-	-	
	A.計(b+d)	5,594	5,549	5,724	10,504	9,082	
	B.執行済額	4,756	4,953	5,576	10,182	8,347	
	うち交付金充当額	3,805	3,962	4,461	8,145	6,677	
	次年度繰越額					0	
	執行率(%) (B/A)	85.0%	89.3%	97.4%	96.9%	91.9%	
予算の状況の説明		予算額に対し91.9%の執行率となり計画とおりだった。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R3活動目標(指標)		達成状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	賃金作業職員(2人) 賃金調査職員(2人)	目標	(4人)	(4人)	(4人)	(4人)	
		実績	4人	4人	4人	4人	
	各保護・捕獲器の設置 (ハブ:30台、犬:3台、猫:10台)	目標	(ハブ30台 犬3台 猫10台)	(ハブ30台 犬3台 猫10台)	(ハブ30台 犬3台 猫10台)	(ハブ30台 犬3台 猫10台)	
		実績	ハブ30台 犬3台 猫10台	ハブ30台 犬3台 猫10台	ハブ30台 犬3台 猫10台	ハブ30台 犬3台 猫10台	
猫の譲渡の実施	目標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)		
	実績	実施	実施	実施	実施		
達成状況説明		<ul style="list-style-type: none"> ・会計年度任用職員を4人配置し、2人は集落内の野良ネコ調査及び適正飼養の普及啓発、2人はハブ捕獲器設置回収、犬・猫の保護器設置回収を実施し、ハブを31匹の捕獲、犬を13匹、猫を135匹保護した。 ・観光地周辺及び、村内で目撃事例が多数報告されている地域へ、ハブ捕獲器の設置、野良犬・野良猫が多い地域へ犬・猫保護器を設置したことにより、ハブの捕獲、犬・猫の保護を行い事業実施をすることができた。 ・村が保護し譲渡する猫に対して、猫の避妊・去勢等を目標どおり実施した。 					
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R3成果目標(指標)		基準値 (年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値 (年度)
	①ハブ咬傷被害:1件以下	目標	()	(1件以下)	(0件)	(0件)	()
		実績	/	1件	1件	1件	/
	②ヤンバルクイナの生息率:16.7%以上	目標	()	(15.4%以上)	(15.4%以上)	(33.33%以上)	()
		実績	/	23.10%	33.33%	33.33	/
	③保護した猫の譲渡:80件以上	目標	()	(40件以上)	(80件以上)	(80件以上)	()
実績		/	39件	264件	135件	/	

進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・ハブ咬傷被害は1件であり目標未達成となった。 ・ヤンバルクイナ生息率については、33.33%となった。 ・ネコの譲渡件数については、愛護団体との連携及び地域住民への周知活動を行い135件となった。昨年度と比較して減少しているが、捕獲対象個体の減少が大きな要因となっており、良い傾向であると考ええる。
--------	--

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・ハブ咬傷被害の未然防止については、観光地周辺及び、村内で目撃事例が多数報告されている場所へハブ捕獲器を設置しているが、咬傷被害が一定数あることから、咬傷被害減少への更なる注意喚起が必要であると考ええる。 ・ヤンバルクイナの生息率については、昨年度同様、近年で大会数値を維持しており事業効果を実感している、また野良ネコの数もへりつつあるが、引き続きネコの適正飼養の徹底を促す必要がある。 ・ネコの譲渡について、愛護団体等と連携し、目標達成した。昨年同様、不適正飼育の家庭がみられる為、継続した指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハブ咬傷被害の未然防止について、例年通り捕獲器設置を行うと共に、広報誌への定期掲載や村内放送等で注意喚起を行う。 ・ヤンバルクイナの生息率について、脅威となる外ネコの継続した呼びかけが必要であるため、他団体との連携を含め検討が必要である。 ・ネコの譲渡に関して、村内のみならず、県外や他団体との連携を図り譲渡強化すると共に、適正飼育の徹底を促す。

今後の取り組み方針
<ul style="list-style-type: none"> ・ハブ咬傷被害の未然防止について、例年通り捕獲器設置を行うと共に、広報誌への定期掲載や村内放送等で注意喚起を行う ・ネコの適正飼育及び、野生化したネコの保護、避妊去勢の推進を行う。 ・ネコの譲渡に関して、譲渡会の定期開催を行うと共に、村内・村外及び県外への譲渡を強化していく。さらに、適正飼育の徹底を継続して促す。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
8,347	8,347	6,677	1,670	0

大宜味村 8,347千円	会計年度任用職員報酬 4,388千円	
	会計年度任用職員期末手当 470千円	
	社会保険料 373千円	
	会計年度任用職員費用弁償 88千円	
	需用費 490千円	（ 消耗品代 軽トラック燃料代 ）
	手数料 2,538千円	（ ネコ避妊・去勢マイクロチップ装着業務 ）

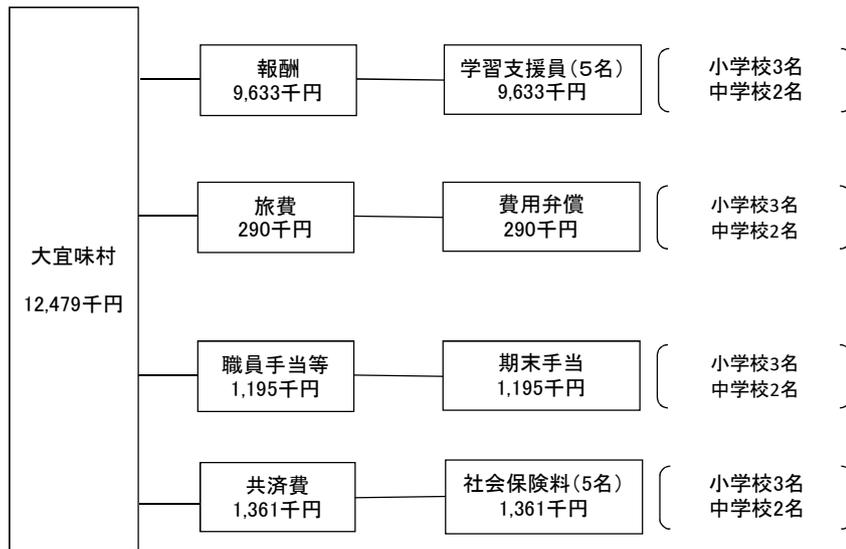
資金の流 点検、費 目・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○任用職員は、村の規則に準じ採用した。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○予算規模は、91.9%の執行率となり、事業規模は適正である。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については、事業実施に必要な不可欠なものであり、計画・支出等に関する書類により確認・適正である。

市町村名		大宜味村					
令和3年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-①		学習支援員配置事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア	
	教育委員会 教育課		事業実施(予定)年度	平成25～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進	
担当部署名						Ⅲ-3-(1)	
事業内容	学力の向上を図るため、村内小中学校に学習支援員を配置する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
		(a) 当初予算額	11,108	11,175	11,175	11,878	13,045
	(b) 予算現額	10,046	11,175	11,175	11,878	13,045	
	(c) 増減額(b-a)	▲ 1,062	0	0	0	0	
	(d) 繰越額						
	A. 計(b+d)	10,046	11,175	11,175	11,878	13,045	
	B. 執行済額	9,853	10,106	10,742	11,404	12,479	
	うち交付金充当額	7,882	8,084	8,593	9,123	9,983	
	次年度繰越額					p	
	執行率(%) (B/A)	98.1%	90.4%	96.1%	96.0%	95.7%	
予算の状況の説明		事業開始当初から学習支援員の人員確保ができて円滑な事業実施ができた。社会保険料について年齢40歳以下の支援員が多かったため、介護保険料の検出がなく予算残額が出た。					
活動目標(指標)及び達成状況	R3活動目標(指標)		達成状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	小学校3名配置(低中高年各1名)	目標	(1小学校×3人)	(1小学校×3人)	(1小学校×3人)	(1小学校×3人)	
		実績	1小学校×3人	1小学校×3人	1小学校×3人	1小学校×3人	
	中学校2名配置	目標	(1中学校×2人)	(1中学校×2人)	(1中学校×2人)	(1中学校×2人)	
		実績	1中学校×2人	1中学校×2人	1中学校×2人	1中学校×2人	
達成状況説明	・村内の小学校1校に3名、中学校1校に2名学習支援員を配置した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R3成果目標(指標)		基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(年度)
	・令和3年度沖縄県学力到達度調査での県平均正答率との差 小学校 0ポイント以上	目標	(-6ポイント)	(-1.5ポイント以上)	(0ポイント以上)	(0ポイント以上)	()
		実績		-3.1ポイント	1.9ポイント	2.3ポイント	
	・令和3年度沖縄県学力到達度調査での県平均正答率との差 中学校 2.4ポイント以上	目標	(-18ポイント)	(-1.0ポイント以上)	(0ポイント以上)	(2.4ポイント以上)	()
		実績		5.8ポイント	0.1ポイント	-0.6ポイント	
	進捗状況説明	・成果目標の設定を沖縄県の到達度調査を用いて設定している。小学校においては県との比較ポイントを0ポイント以上としていたが、目標を上回る2.3ポイントまで飛躍できた。中学校においては目標を2.4ポイント以上としていたが、目標を達成できない状況であった。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校においては成果目標以上の沖縄県平均を2.3ポイント上回り大きな効果が見られた ・中学校においては全教科平均が県平均を-0.6ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校は引き続き支援員を3名配置し、行き届いた環境の維持が求められる。 ・中学校においては沖縄県到達度調査において沖縄県平均を下回る結果となっており、今後は支援方法の改善等を行い、県平均並みの水準になるよう取組んでいく必要がある。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校においては、成果目標の達成状況から見ても、支援による効果が大きいため今後も学力がしっかりと定着出来るよう支援員と共に協力しながら継続して学習支援に取り組んでいきたい。 ・中学校においては今後、成果目標を達成するため、前回至らなかった点を支援員と共に協議しながら学習支援の取組方について改善を図る。 		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
12,479	12,479	9,983	2,496	



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ○支援員の採用については、公募により行っており、適正であった。 ○予算規模については不用額は262千円であり、適正な規模であったと考えている。 ○費目・用途については事業目的達成の観点から必要な支援員の報酬と共済費を支払った。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名 大宜味村

令和3年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

Table with 4 columns: 事業番号・事業名 (2-②), 地域支援員配置事業, 沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 (第3章-5-(3)-イ), 担当部課名 (教育委員会 教育課), 事業実施(予定)年度 (平成25~令和3年度), 沖縄振興基本方針該当箇所 (III-3-(1))

事業内容 学校と地域の連携を充実させ、不登校やいじめ等に対して生徒を支援する地域支援員を配置する。

効果発現年度 ■当年度 □後年度(年度)

実施方法 ■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()

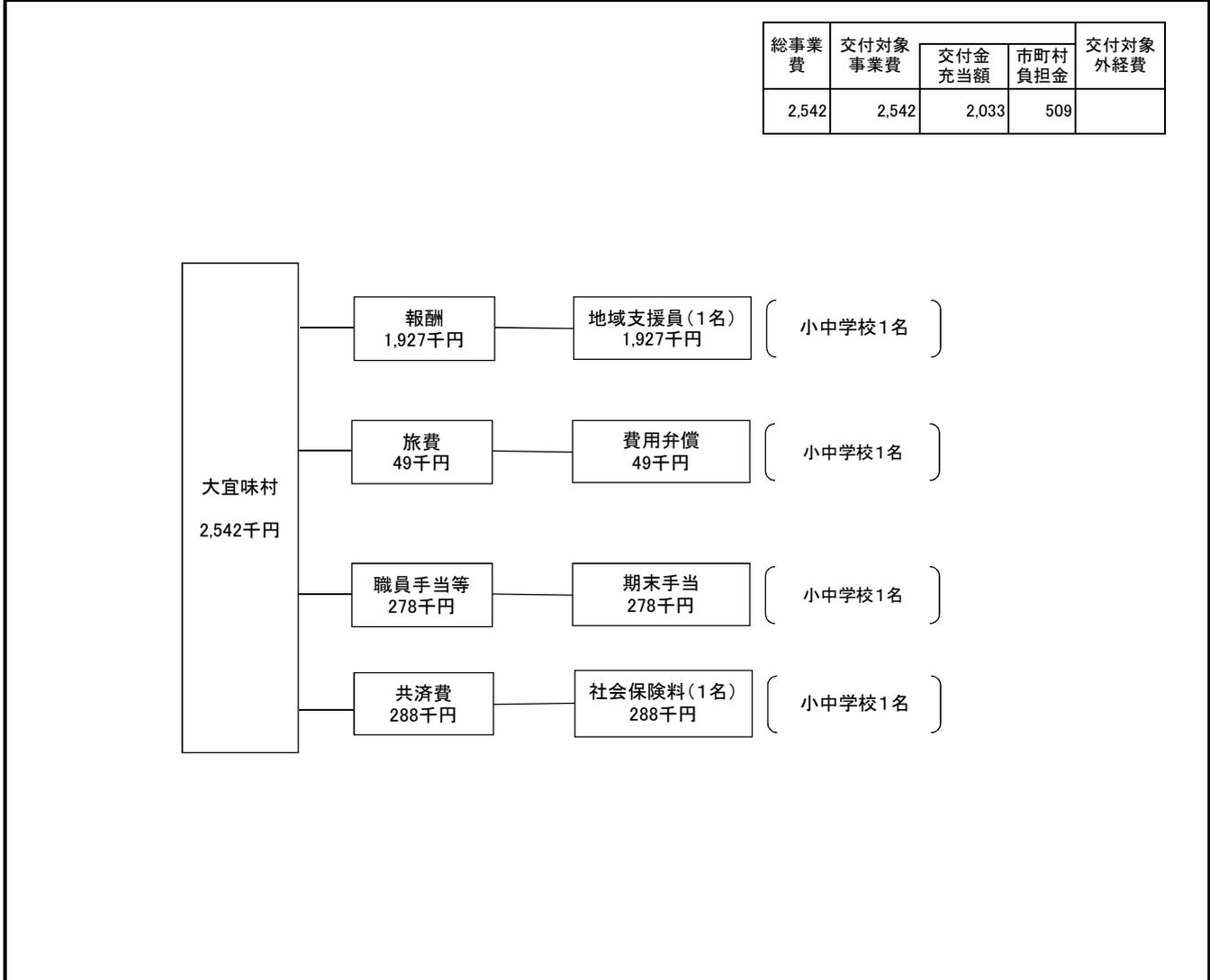
Table with 7 columns: 予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース), H29年度, H30年度, R1年度, R2年度, R3年度. Rows include (a)当初予算額, (b)予算現額, (c)増減額(b-a), (d)繰越額, A.計(b+d), B.執行済額, うち交付金充当額, 次年度繰越額, 執行率(%)(B/A), and 予算の状況の説明.

Table with 5 columns: R3活動目標(指標), 達成状況 (H30年度, R1年度, R2年度, R3年度). Rows include 地域支援員配置数 (村内小中学校1人) and 達成状況説明.

Table with 7 columns: R3成果目標(指標), 基準値(年度), R1年度, R2年度, R3年度, 目標値(年度). Rows include 支援対象の不登校気味児童生徒のうち、不登校に至らなかった児童生徒の割合 (小学校・中学校 100%) and 進捗状況説明.

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域支援員だけでなく外部機関(教育委員会や民生員)と定期的に情報交換を行うことで、児童生徒を取り巻く諸問題に早急に対処できる体制づくりはできた。 ・児童生徒間のトラブルや進学時の環境の変化への戸惑いから不登校気味になる場合もある。 ・現在、小学校において登校渋りの児童が複数いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域支援員が主となり小中学校の養護教諭、貧困対策コーディネーター、教育相談員、児童クラブ代表で月一回の情報交換会を行い、児童生徒の諸問題等について密な連携がとれる体制が整っている。その効果もあり、問題を抱える子供達一人一人に合った支援体制が望める。 ・登校渋りの児童においては、保護者が課題を抱えていることもあることから、家庭の巡回を行いつつ民生員や関係機関に繋げていくことで課題解決を図る。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> ・今後も地域支援員と教育分野(教育委員会、教育相談員)、福祉分野(民生員)との連携を図り、地域全体で児童生徒並びに保護者への支援体制を維持する。 ・環境の変化が特に大きい小中学校進学時においては重点的なケアを行い、日々の児童生徒の交友関係にも気を配り、今後もきめ細かな支援を行う。 		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

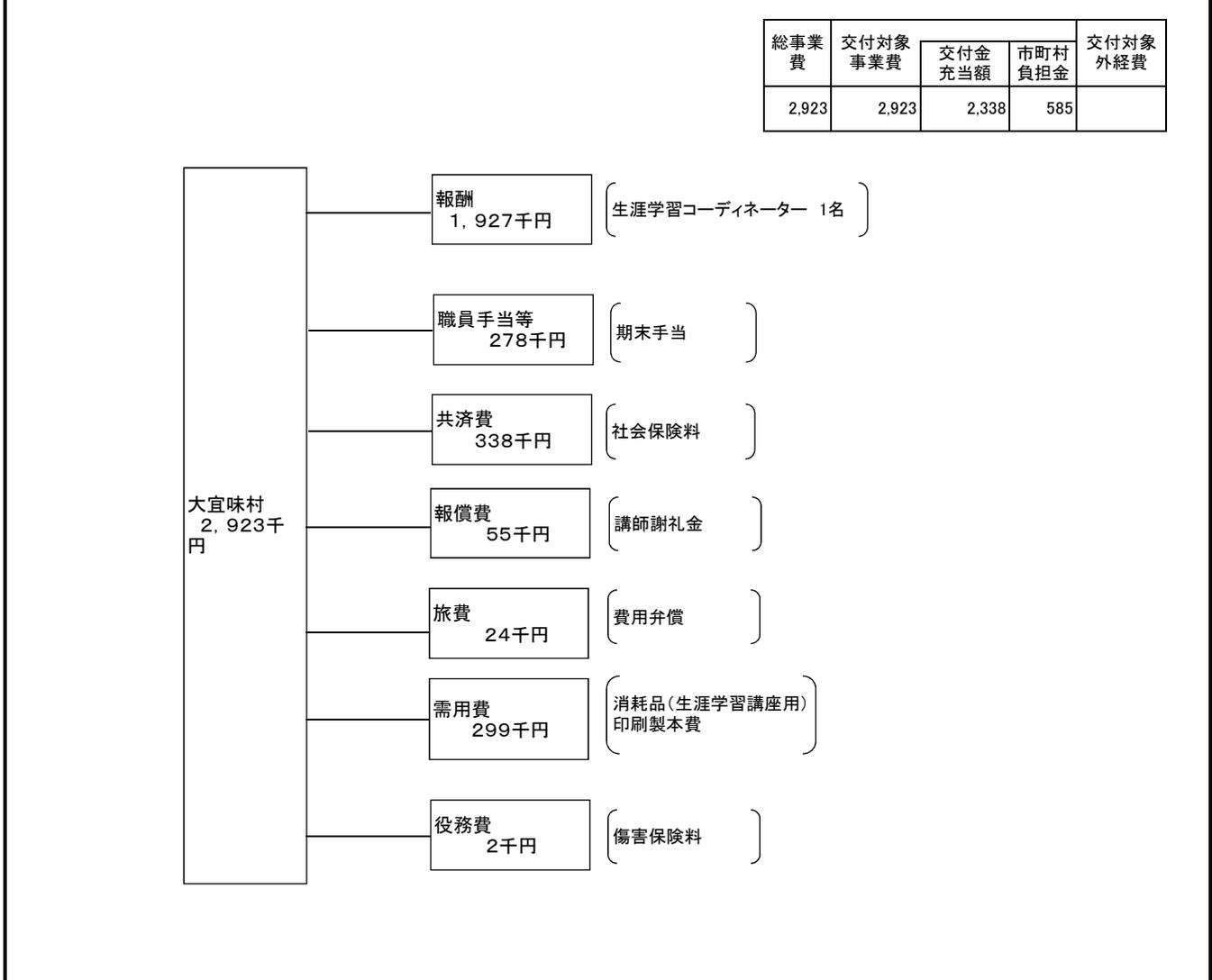


資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援員の採用については、公募により行っており、適正であった。 ○予算規模については不用額は22千円であり、適正な規模であったと考えている。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要な支援員の報酬と共済費を支払った。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	大宜味村						
令和3年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-③	「ぶながやの里」地域人材育成支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(2)-イ		
担当部署名	教育課	事業実施(予定)年度	平成25年度～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	生涯学習社会の実現		
事業内容	各社会教育団体の生涯学習活動及び青少年の学校外活動における学習機会の拡充を図り、その活動を通して本村の自然や文化、社会への基礎的な興味関心を培い、地域リーダーとなる人材の育成を図るため、生涯学習活動事業を展開する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	2,477	2,523	2,523	3,121	3,359
		(b) 予算現額	2,477	2,535	2,995	2,691	3,049
		(c) 増減額(b-a)	0	12	472	▲430	▲310
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計(b+d)		2,477	2,535	2,995	2,691	3,049
	B. 執行済額		2,373	2,411	2,716	2,537	2,923
	うち交付金充当額		1,898	1,929	2,172	2,029	2,338
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		95.8%	95.1%	90.7%	94.3%	95.9%
予算の状況の説明		新型コロナウイルスの影響で当初より予算、事業計画・内容等に変更はあったが、コロナの状況を確認しながら実施した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R3活動目標(指標)		達成状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	わんぱく体験団 5回以上開催 生涯学習講座 5回以上開催	目標	(12回)	(12回)	(6回)	(10回)	
		実績	15回	13回	6回	9回	
目標 () () () () 実績							
達成状況説明	わんぱく体験団について、1～2月に計画・予定していた講座が新型コロナウイルスに係るまん延防止重点措置の延長等の理由によって、やむを得ず中止することになり生涯学習講座を含めて合計9回の開催となった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R3成果目標(指標)		基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(年度)
	講座受講者数:100名以上	目標	()	(252名)	(60名)	(100名)	()
		実績		776名	74名	138名	
	目標 () () () () 実績						
進捗状況説明	講座受講者は合計138名となり、目標を達成できた。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組 の 検証	新型コロナウイルスの影響により、当初計画していた講座の開催が難しかったため、1講座あたりの募集人数を減らしたり、密を避けるなどのコロナ感染防止対策を行いながら講座の開催を行った。	今後も新型コロナウイルスの影響が懸念されるが、住民の学習機会を確保・拡充し、地域のリーダーとなる人材の育成を図るため、引き続き講座の開催をしていく必要がある。
	今後の取り組み方針	
<p>新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、生涯学習講座の内容を充実させ、受講者に本村の自然環境を活用してミニキャンプや本村に住む生き物の観察・習性を学ぶ講座、本村の施設や特産物等を使って紙漉き・ものづくり講座などを開催し、本村の自然や文化等についての興味関心を高める取り組みを実施する。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



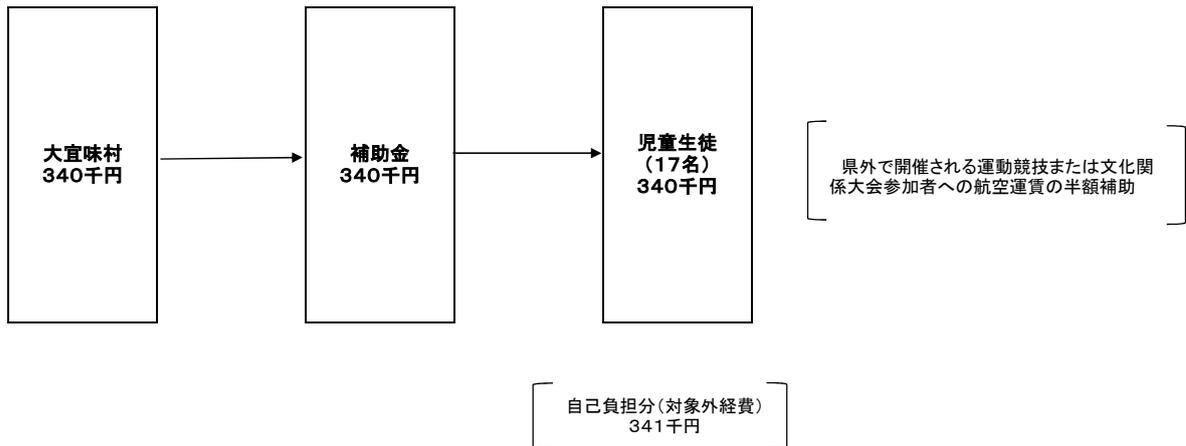
資金 使途の 流れ、 費目 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定方法について、生涯学習コーディネーターは、村の配置要綱に基づき採用しており、妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○印刷製本数量の減などがあり、少々不要が生じたものの予算規模は適正であった。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		大宜味村					
令和3年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-④	児童生徒等県外派遣支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-イ	
担当部署名	教育委員会 教育課	事業実施(予定)年度	令和4年度～令和1年度	沖縄振興基本方針該当箇所	能力を引き出し、感性を磨く人づくりの推進		
事業内容	大宜味村に在住する児童・生徒(小学校・中学校・高校生)に対し、県外で開催される運動競技又は文化関係の大会に、予選及び審査等の結果、代表として参加する際の派遣費用を補助する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
		(a)当初予算額	925	901	911	1,435	700
	(b)予算現額	540	688	494	503	411	
	(c)増減額(b-a)	▲385	▲213	▲417	▲932	▲289	
	(d)繰越額	0	0	0	0	0	
	A.計(b+d)	540	688	494	503	411	
	B.執行済額	520	496	326	71	340	
	うち交付金充当額	416	397	261	57	272	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	96.3%	72.1%	66.0%	14.1%	82.7%	
予算の状況の説明	*141千円については活用見込みがあったため確保していたが、県大会での敗退や、新型コロナウイルス感染症の影響で大会の中止があり不用額となった。						
活動目標(指標)及び達成状況	R3活動目標(指標)		達成状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	児童生徒への県外派遣支援		目標 (派遣費の一部を助成)	(派遣費の一部を助成)	(派遣費の一部を助成)	(派遣費の一部を助成)	
			実績 25名	22名	6名	17名	
		目標 ()	()	()	()		
		実績					
達成状況説明	次のとおり、17名の児童生徒の派遣を支援した。 ①第50回ゴーセン杯争奪ハイスクールジャパンカップソフトテニス2021(北海道)1名派遣 ②令和3年度全九州高等学校競技体育大会 第74回全九州高等学校ソフトテニス競技大会(大分県)1名派遣 ③令和3年度全九州高等学校競技体育大会 第74回全九州高等学校ソフトテニス競技大会(大分県)1名派遣 ④令和3年度全九州高等学校競技体育大会 第74回全九州高等学校ソフトテニス競技大会(大分県)1名派遣 ⑤NPBガールズトーナメント2021(全日本女子学童軟式野球大会)(愛媛県)1名派遣 ⑥NPBガールズトーナメント2021(全日本女子学童軟式野球大会)(愛媛県)1名派遣 ⑦第49回九州中学校水泳競技大会(宮崎県)1名派遣 ⑧第52回九州中学校ソフトテニス競技大会(長崎県)2名派遣 ⑨第36回九州ジュニア選抜インドアソフトテニス大会(熊本県)7名派遣 ⑩2021年度強化育成事業 日本女子B代表チーム第1次合宿(静岡県)1名派遣						
成果目標(指標)及び進捗状況	R3成果目標(指標)		基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(年度)
	派遣された児童・生徒の保護者へのアンケートで、児童・生徒が県内ではできない経験をする事ができたとの回答割合が80%以上		目標 ()	(80%)	(80%)	(80%)	()
			実績	100%	100%	100%	
			目標 ()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	令和3年度に実施した保護者へのアンケートでは、「県内ではできない経験をする事ができたか」の設問について、「できた」との回答が100%であり、目標を達成することができている。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・県外派遣を実施することで、すべての保護者が「児童生徒が県外ではできない経験をすることができた」と回答しており、本事業の成果が表れている。 ・派遣した児童生徒の活動報告から満足度が高いことが窺われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒や保護者の振り返りを深めるため、アンケートにより本事業の在り方について検証する。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートによって児童生徒がどのような経験ができたかを、具体的に把握することに努め、毎年度はじめに行う村内の小中高校への派遣事業の周知や、村教育委員会発刊誌により全世帯への周知を行い、県外での大会派遣を引き続き支援していく。 		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
681	340	272	68	341



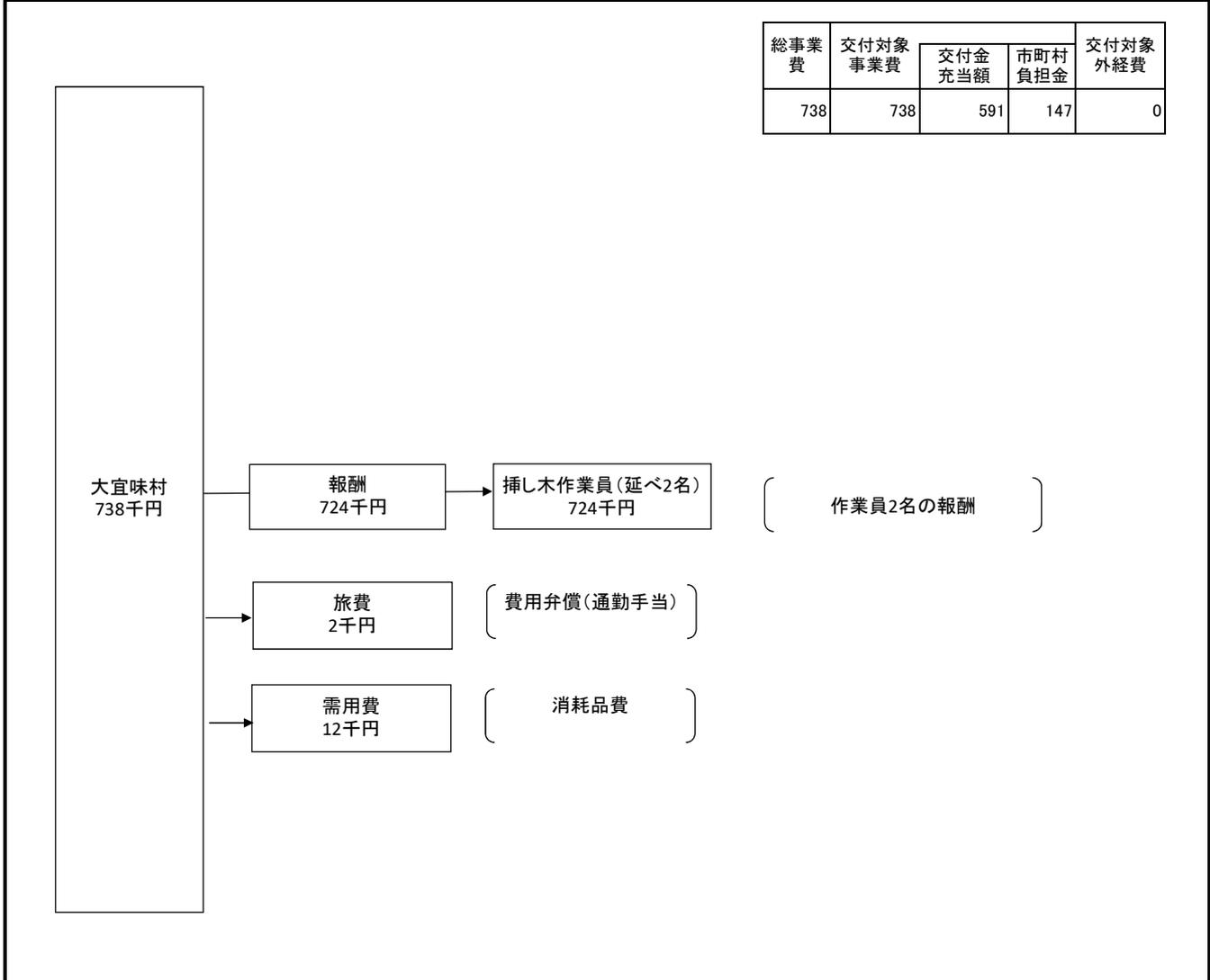
資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	大宜味村						
令和3年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-①	カラキ活用推進プロジェクト		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(9)-(イ)		
担当部署名	産業振興課	事業実施(予定)年度	平成28～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	県産品の販路拡大と地域ブランドの形成 Ⅲ-1-(4)		
事業内容	カラキ(オキナワニッケイ)をシナモンとしての価値に着目し村内の地域資源として活用し、苗木生産から一次加工、商品開発・ブランド構築までを一貫して行い、地域内連携を推進しながら農林業の振興、観光の振興、人材育成等の地域振興を図る。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和4年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	7,389	10,046	14,330	12,546	1,168
		(b)予算現額	6,871	9,646	4,572	12,534	1,168
		(c)増減額(b-a)	▲518	▲400	▲9,758	▲12	0
		(d)繰越額					
	A. 計(b+d)		6,871	9,646	4,572	12,534	1,168
	B. 執行済額		6,731	9,588	4,243	12,534	738
	うち交付金充当額		5,384	7,670	3,394	10,036	591
	次年度繰越額		-	-	-	11,652	
	執行率(%) (B/A)		98.0%	99.4%	92.8%	100.0%	63.2%
予算の状況の説明		不用額430千円は、作業日数の減による報酬費と需用費の減額によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	R3活動目標(指標)		達成状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	・苗木の栽培育成	目標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)	
		実績	実施	実施	実施	実施	
	・定植苗の配布	目標	()	(実施)	(実施)	(実施)	
		実績		実施	実施	実施	
	・加工法の検討	目標	(実施)	(実施)	(実施)	()	
		実績	実施	実施	実施		
	・PR活動の実施	目標	(実施)	(実施)	(実施)	()	
		実績	実施	実施	実施		
・挿し木の実施	目標	(実施)	(実施)	(実施)	()		
	実績	実施	実施	実施			
達成状況説明	・苗木の栽培育成については、昨年度までに作成した優良な挿し木の苗木の栽培育成のための管理作業を行った。 ・定植苗の配布については、希望する農家を募集・審査・栽培講習会を開催し優良苗木を配布を行った。						

R3成果目標(指標)		基準値 (年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値 (R4年度)
・挿し木苗の栽培管理の完了	目標	()	(完了)	(完了)	(完了)	()
	実績		完了	完了	完了	
・鉢上げ作業の完了	目標	()	(完了)	(完了)	(完了)	()
	実績		完了	完了	完了	
・鉢上げ後の苗の栽培管理の完了	目標	()	(完了)	(完了)	(完了)	()
	実績		完了	完了	完了	
・苗の配布完了	目標	()	(完了)	(完了)	(完了)	()
	実績		完了	完了	完了	
・講習会の開催(年1回以上)	目標	()	()	()	(完了)	()
	実績				完了	
【R4成果目標】 ・開発した商品を活用し村内事業者11店舗以上	目標	()	()	()	()	(11店舗)
	実績					
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・挿し木苗の栽培管理の完了・・・令和元年及び2年度に挿し木した苗をトンネル内で栽培管理を行った。 ・鉢上げ作業の完了・・・令和元年度に挿し木した苗の鉢上げ作業を行い、約600鉢を作ることが出来た。 ・鉢上げ後の苗の栽培管理の完了・・・鉢上げされた苗は除草・かん水等の作業により栽培管理を行った。 ・苗の配布完了・・・希望する13名の農家に340本の優良種苗を配布した。 ・講習会の開催(年1回以上)・・・配布を決定した農家向けに定植方法を中心に栽培講習会を開催した。 					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 配布先の農家の栽培環境がそれぞれ異なる。 整枝・剪定方法等の収穫に直結するような栽培技術がまだ確立されていない。 カラキ葉を出荷できる農家が少なく供給が限られているので商品開発等が進まない。 	<ul style="list-style-type: none"> 栽培がうまくいっている配布先農家で現地検討会を開催し、栽培技術の普及・平準化を図る。 栽培技術については県の関係機関等にも相談して技術向上・普及をめざす。 カラキの供給量を上げるために葉が多く収穫できる栽培技術について配布先農家それぞれで検討する。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> 農家に配布した苗の栽培状況について現地調査や聞き取り調査を行い、栽培技術に関する情報を収集する。 農家への配布終了後の苗木の増殖については、これまで配布した農家が自主的に取り木等で増殖できるようにする。 今後のカラキの商品化については村内のカラキの増殖具合を見ながら県内の食品関係者等と一緒に取り組む。 		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	